

令和7年度病虫害発生予察特殊報第1号

令和7年7月16日
千葉県農林総合研究センター長

チュウゴクアミガサハゴロモの確認について

1 害虫名：チュウゴクアミガサハゴロモ

2 学名：*Ricania shantungensis* (Chou & Lu, 1977)

3 作物名：ブルーベリー、アメリカテマリシモツケ

4 発生確認の経緯及び国内での発生状況

(1) 令和7年4月2日、県内からチュウゴクアミガサハゴロモのものと疑われる卵が産み付けられたブルーベリーの枝が千葉県農林総合研究センターに持ち込まれた（写真1）。

同センター病理昆虫研究室で卵から飼育した幼虫が6月26日に羽化し、チュウゴクアミガサハゴロモと同定された。

(2) 令和7年5月27日、県内のアメリカテマリシモツケに寄生したハゴロモ類の幼虫が、同センターに持ち込まれた。寄生がみられたアメリカテマリシモツケでは、一部ですす病を発症したため、出荷ができなくなる被害が発生した。同センター病理昆虫研究室で飼育した幼虫が6月16日に羽化し、チュウゴクアミガサハゴロモと同定された。

(3) 本種は中国原産である。国内では、神奈川県、埼玉県、福岡県、山梨県、東京都、群馬県、熊本県、富山県から病虫害発生予察特殊報が発出されているほか、高知県から侵入確認に関する病虫害発生予察技術情報が発出されている。

5 特徴

(1) 形態

成虫は、翅端までの体長が14～16mmである。前翅は茶褐色から鉄錆色であり、前翅長は14mm程度である。前翅前縁中央部には、三角形の白斑が存在する（写真2）。

幼虫は白色で、腹部から白い糸状の蠟物質の毛束を広げる（写真3）。

(2) 生態

本種は広食性であり、カバノキ科、クワ科、ブナ科、マメ科、モクセイ科などの様々な植物を寄主として利用することが知られているが、国内における年間発生世代数など、生態については不明な点が多い。

(3) 被害

成虫・幼虫ともに新梢に寄生して吸汁する。発生が著しい場合は、排泄物によりすす病を発症する。また、成虫は直径10mm以下の枝に傷をつけて産卵するため、枝の伸長抑制や枯死により植物体を衰弱させる。

6 防除対策

- (1) 令和7年7月現在、ブルーベリー及びアメリカテマリシモツケで本種に使用できる薬剤は無いため、耕種的・物理的防除に努める。
- (2) ほ場内をよく見回り、成虫や幼虫は見つけ次第捕殺する。
- (3) 産卵された枝は切除してほ場外に持ち出し、埋却するなど適正に処分する。



写真1 ブルーベリーの枝に産卵された卵



写真2 チュウゴクアミガサハゴロモ成虫



写真3 チュウゴクアミガサハゴロモ幼虫

- ・病害虫発生予察情報は、インターネットでもご覧いただけます。
<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>
- ・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。
<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町 180 番地 1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp

